

日本学術会議 物理学委員会 IAU分科会 報告

分科会開催：1月23日

幹事・深川 美里
(日本学術会議連携会員)

日本天文学会2019年春季年会

日本学術会議 天文学・宇宙物理学/IAU分科会

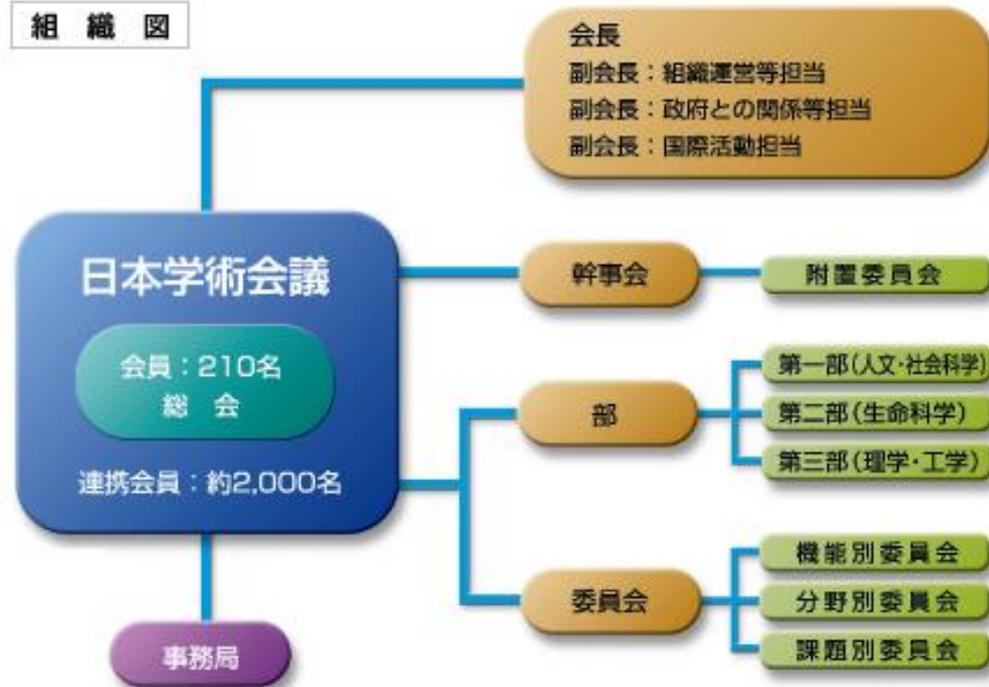
日本学術会議とは

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年（1949年）1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立されました。職務は、以下の2つです。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。



組織図



氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
梶田 隆章	東京大学宇宙線研究所教授	第三部会員
田近 英一	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教授	第三部会員
藤井 良一	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構長	第三部会員
山崎 典子	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究研究所教授	第三部会員
相川 祐理	東京大学大学院理学系研究科天文学専攻教授	連携会員
浅井 歩	京都大学大学院理学研究科附属天文台准教授	連携会員
生田ちさと	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所学際科学研究系准教授	連携会員
岡村 定矩	東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラムチェアマン補佐	連携会員
奥村 幸子	日本女子大学理学部数物科学科教授	連携会員
海部 宣男	国立天文台名誉教授	連携会員
佐々木 晶	大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻教授	連携会員
芝井 広	大阪大学理学研究科教授	連携会員
新永 浩子	鹿児島大学学術研究院理工学域理学系物理・宇宙専攻宇宙情報講座准教授	連携会員
杉山 直	名古屋大学大学院理学研究	連携会員

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
須藤 靖	東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授	連携会員
千葉 柁司	東北大学大学院理学研究科天文学専攻教授	連携会員
常田 佐久	国立天文台台長	連携会員
永原 裕子	東京大学大学院理学系研究科教授	連携会員
林 正彦	国立天文台光赤外研究部教授	連携会員
深川 美里	名古屋大学大学院理学研究科准教授	連携会員
観山 正見	広島大学学長室特任教授	連携会員
村山 斉	東京大学国際高等研究所数物連携宇宙研究機構機構長・特任教授	連携会員
山田 亨	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究研究所教授	連携会員
渡部 潤一	大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台教授	連携会員

● 天文学・宇宙物理学

委員長：林 正彦、副委員長：山崎典子

● IAU

委員長：渡部潤一、副委員長：生田ちさと

幹事：山田 亨、深川美里

IAU分科会 第24期の課題

- IAU 会員の推薦
- IAU 各種活動への積極参加、参加の奨励

今後のシンポジウム

- ✓ IAUS 358: Astronomy for Equity, Diversity and Inclusion — a roadmap to action within the framework of the IAU 100th Anniversary (2019年11月、東京)
- ✓ IAU 100年記念事業日本学術会議シンポジウム (2019年5月、東京) 詳細は後述

分科会報告

- 提言「ハッブルの法則の改名を推奨するIAU決議への対応」（2018年12月26日）
 - ✓ 2018年8月のIAU総会における推奨名変更の決議案は電子投票を経て2018年10月に成立
 - ✓ 特に教育現場の混乱の可能性を考慮し、背景説明と対応の方針を準備、物理学委員会での審査を経てIAU、天文学・宇宙物理学分科会から「提言」を発出
- Junior Member
 - ✓ 日本の機関に所属する2名から申請あり
- IAU100周年記念行事
 - ✓ 日本は創立7カ国の一つ、IAU100のグローバル・スポンサー（国立天文台）
 - ✓ 全体のセレモニー：4月11-12日、ブリュッセル
 - ✓ 日本学術会議シンポジウム：5月27-28日、科博
 - ✓ IAUシンポジウム358：11月12-15日、三鷹
“Astronomy for Equity, Diversity and Inclusion”
 - ✓ その他、様々な関連行事

- IAU 100年記念事業日本学術会議シンポジウム
(日本天文学会、国立天文台共催、日本天文協議会協賛)
 - ✓ 時期：2019年 5月27-28日 (月-火曜)
 - ✓ 場所：国立科学博物館講堂
 - ✓ 開催趣旨：国際天文学連合が創立100周年を迎えるに当たり、創立国7各国の一つである日本の天文学のこれまでの100年を振り返りつつ、これからの100年を見通すことで、日本の独自性・特殊性を浮き彫りにしつつ、本分野における今後の研究の振興をはかるためのシンポジウムを開催するものである。
 - ✓ 対象者：天文関連分野研究者、教育普及関係者、天文愛好家、ジャーナリスト、天文学に関わる行政官・政治家 (社会とのつながり重視)